

事前の学習用アイテム

[前回の内容]

常識が変わる責任共有のカタチ

<https://www.janog.gr.jp/meeting/janog45/program/responsesshare>

前回はクラウド事業者(提供者)が提唱する責任共有モデルの解説と事例について議論しました。
発表者の主張としては、「すべてのものはいつでも壊れうる」という考えを根底にした上で、サービス提供者とサービス利用者が適切な関係を築くべきである、というものでした。

[今回出てくる用語]

SLA (Service Level Agreement)… サービス提供者が設定するサービスレベル。例) 稼働率 99.99%

SLO (Service Level Objective)… システム運営者によるサービスレベルの目標値。例) 障害初動開始 15分

APM (Application Performance Management)… システムのメトリクスを収集、分析するツール。

SA (Solutions Architect) … システム課題を解決するための構成を考える職種(ロール)。

[発表スタンス]

前回に続いて、クラウド時代における責任共有モデルの解説の延長となります。

サービス提供者とサービス利用者がサービスレベルをいかに合意形成していくべきか、理想と現実のギャップや方法論などを提示します。

発表中にZoomで皆様からご意見をたくさん頂戴して、議論を深めるためにも前回の資料を一読のほどお願いいたします。